



公益社団法人 日本山岳会

宮崎支部報

第77号



甕岳 火口湖湿原

[グループ山行] 甕岳(こしきだけ) 10月26日(火)

清家 順子

先日の雨もあがり秋晴れの良いお天気の中、8時高岡ビタミン館に集まり近くの郵便局に移動、ここから3台の車に分乗して小林に向かう。私は霧島が噴火危険区域になって以来露天風呂コースは本当に久しぶりだった。くねくねと巡回するたびに秋のこぼれ陽が黄色や赤に照り映えて美しく、コロナ禍から少し開放された喜びもあり感慨深い一日。

露天風呂近くの立ち入り禁止場所で下車。各々準備体操の後10時登山開始。松林の山道はすっかり秋の風情でふわふわの落葉を踏みしめながら、木漏れ日のなか楽しい会話が聞こえる。八合目あたりから急に勾配は急峻になり少し間隔が離れると「おーい」と声を掛け合いながらそれぞれのペースで歩く。

真っ赤なツルリンドウの実や鮮やかな苔の緑に元気を貰いながら、頂上に11時30分着。此处からの展望は遠く開聞岳も見え、見渡す韓国岳・白鳥山・六観音の山肌は紅葉が美しく此处まで来た人だけのご褒美のようだ。火口湖に降りた。周り是一片の銀色のススキ野原。その中に秋のリンドウが咲き松林とのコントラストが見事。池の周り半分は松林、半分は常緑樹なのはなぜだろう。此处で昼食。輪になり弁当をいただきながら楽しい会話が賑やかだ。トンボもペアで飛び交い歓迎。池の淵それぞれを囲み集合記念撮影・ご夫婦仲良く撮影・一人でハイポーズと楽しいひと時。後日その写真を見て感動!!真っ青な空を映す湖面に写る逆さま対比の美しい写真である。

景色を十分に堪能し湖淵を半周して下山。注意しながらゆっくりと1時間、途中ヤマボウシの実が美味しかった。下山後生駒高原に寄り一息。りんご園でりんごをゲットし出発場所郵便局で解散した。私は高齢になり山行が計画されるたびに考える。この山歩けるかな?皆さんに迷惑かけないかな?と迷う。途中までと参加したり、この山以前は元気に歩けたのにと思ったりの参加だが、会話しながら山容の美しさに騙され癒されながら今年も秋を楽しんだ。山友に出会えた事有難く思う秋である。



<参加者11名>清家順子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・橋口三枝子・中武照子・荒武八起・谷口菊美・多田周廣・服部岩男・川越政則

<コースタイム>高岡郵便局駐車場8:00~登山口出発
10:00~頂上11:30(下山12:30)~登山口13:30~りんご園14:00~高岡郵便局駐車場16:00

[10月定例山行1] 尾鈴山・白滝 10月10日(日)

蔵屋 とよ

8時ヤマダ電器駐車場を9名で出発し9時15分登山口着。ここで1名が合流する。前日の大雨も上がり、時折晴れ間ものぞき丁度よい。だが、経験者の方々のヒル対策の準備でジワジワと恐怖を覚え始める。これでもかというほどの虫除けスプレーを帽子にも足にも噴霧し、その上から多田さんにお借りした”ヒルサガリのジョニー”という効果を期待するネーミングのスプレーを吹きかけ、9時30分櫛谷登山口出発。

自然遊歩道となっている登山道はくねくねとしたヘアピンだが整備されて歩きやすい。本来であれば時折木々を見上げたりキバナノツキヌケホトギスを探したり、ゆっくり歩きたいところだが、靴から静かに這い上がってくるヒルとの戦いにエネルギーを使う。時折、険しいショートカットのコースに誘導してもらったことで早くこの場を過ぎ去れる、と少し嬉しかった。

コースの途中に「尾鈴山の白馬伝説」や「トロッコ道の歴史」の説明板もあったが、一瞬では理解できないためその都度写真を撮りあとで確認。便利な時代に感謝。明治42年から開通されたトロッコ道とのこと。所々作業場の跡が石垣として残っていた。すだれの滝・さざりの滝・トンネルを抜けると、さらさの滝・やすらぎの滝・はがくれの滝と続き、最後に苔に覆われたゴロゴロした大岩をよけながら歩くと間もなく滝音が聞こえ、12時ようやく白滝に到着。「高さ75m、瀑布群の中でも最も高さのある滝、文政5年(1822年)金剛院貞祐という修験者がここで修行をしました」と書かれている。昨夜の雨で水量も増し、高さ75mから流れ落ちる爆風の迫力に圧倒される。ゆっくりマイナスイオンを浴びて満喫したいところだが昼食をとっている間もヒルの脅威に落ち着かない。雲行きも気になりながら下山開始、ゆっくり山野草を散策するのは諦め足早になる。

14時15分、駐車場到着。車に乗る前に一同念入りにヒルが付いていないか確認。参加者10人中、ヒルがついた数、総数75箇所以上、血を流した人5名、家に帰って気が付いた人2名(耳たぶの裏、お腹)。清流と滝群、そして山ヒルの洗礼を受け思い出深い山行だった。それぞれの車に分乗しヤマダ電器着15時20分、解散する。

<参加者10名> 多田登美子・橋口三枝子・蔵屋とよ・風間恭子・荒武八起・日高研二・多田周廣・弓削達雄・四宮林三・川越政則

<コースタイム> ヤマダ電器駐車場発8:00～尾鈴山登山口着9:15(出発9:30)～白滝着12:00(昼食後12:30出発)～尾鈴山登山口着14:15～ヤマダ電器駐車場着15:20



雨後で増水した渡渉点



白滝



ヒルとの闘いを終えて

[10月定例山行2] 岩壺山 10月23日(土)

白賀 智子

4月25日の鰐塚山以来の山登りになった。ロープを使って登るらしいと聞いていたので、尻込みしていたが「登りも下りも同じルートだから、無理なら途中で待っていれば良いが……」って事で参加させて頂く事になった。どうして、信じてしまったのか? 「ハイキングよ」と言われて初参加した双石山の悪夢再び。さすが日本山岳会宮崎支部!! 登山前に頂いた計画書通りに7:00小谷登山口出発、14:00林道脇駐車場到着。

出発前、武田さんが配って下さった特選バナナ5本を背負い頂上を目指す。林道脇にはアケボノソウなど可憐な花が咲いていて、楽しい登山になりそうとワクワクした。登山口はピンクのテープが貼ってあるだけの急傾斜で不安がよぎる。口数も少なく、皆さんのアドバイスを聞きながら黙々と登る。

倒木を跨ぐ時、木の枝を掴む時、手・足の短さを嘆きながら一步一步足元を気にしながら登る。30分毎の休憩は、景色を見る余裕はなかったが、光もあまり差さない場所で待っている方が怖いので頑張っている。巨岩の回りにロープが張ってあり、結び目を一つ一つ確認して滑らないように上がっていき、「ヨッカラセ!」と上がった先によりやく頂上があった。

空は青いけれど風が強くて寒くて堪らない。甘いコーヒーをご馳走になって本当に美味しく温まって嬉しかった。重い荷物を背負って皆に振る舞って下さりありがたかった。景色を見渡せば遠くに高千穂の峰も見えて「登れたんだなあー」と嬉しかったと同時に下りの心配が……。

11時20分頃に出発。再びロープを使い、足元に気をつけながら下るが、ズル〜と滑ってヒヤッとする場面も。後ろから前からのアドバイスを受けてゆっくりゆっくり下った。13時頃に登山口に戻ったときは、達成感でいっぱいだった。青空が眩しくて嬉しかった。

帰宅するとザックの中にバナナ5本。美味しく頂いた。ご馳走様。一週間ほど筋肉痛で歩行に支障があったが、ハードな準備運動のお陰で、11月3日の栗野岳登山では少しの筋肉痛もなかった。



山頂から遙か霧島連山を望む、手前は鰐塚山系



原生林の中、急登が続く



岩壺山 山頂



ハンショウヅル

アケボノソウ

<参加者9名> 服部澄子・橋口三枝子・蔵屋とよ・白賀智子・風間恭子・荒武八起・武田芳雄・服部岩男・四宮林三

<コースタイム> 小谷登山口駐車場7:00～岩壺山林道脇駐車場7:20(7:30)～登山口8:20(8:30)～岩壺山山頂10:30(11:20)～登山口13:00～岩壺山林道脇駐車場14:00

[11月定例山行1] 栗野岳 11月3日(水・文化の日)

拵 恵子

11月3日(水)快晴。新型コロナウイルス感染防止のため、今年も「宮崎ウエストン祭」が中止となり、その代わりとして栗野岳の山行となった。栗野岳は鹿児島県湧水町に位置する1102mの山で、登山口の周辺には泥湯の栗野岳温泉やレクリエーション村、霧島アートの森等の施設があり、色々楽しめる所でもある。

さて、前日のテレビのニュースではえびの高原で紅葉が見ごろを迎えていると報じられていて栗野岳も！と期待いっぱいに出かけた。栗野岳枕木階段登山口に9時前に集合。参加者は27名で会員以外の参加者も多く少し賑やかな山行となりそう。

9時過ぎに「日本一の枕木階段」からスタートした。さすがに日本一というだけに、眺めがいい分登るには息が切れる。階段の先にある展望台からは登山口のもみじの紅葉に続く階段の長さや湧水町の街並みが広く見渡せ「すごい！きれい」の声が聞かれた。

展望台から先は2班に分かれての登山となった。展望台からゆるやかな登りが続き約1時間ほどで紅葉のきれいな「もみじ群生地」に着いた。陽に輝く紅葉に感嘆の声を上げながら写真を撮る。そして「見晴台」に着くと白鳥山や韓国岳等の山が一望できここからの眺めも素晴らしい！雄大な山々を眺めながらここで小休止をとる。我々の他にも登山者が次々と登ってきて賑やかだった。

見晴台から少し急な登山道を行くと約30分で「栗野岳第2峰」に到着。振り返ると見晴台や登ってきた山の紅葉がきれいに見渡せた。ここにはたくさんのリンドウやヤマラッキョウの花が咲いていて花を踏まないように座り昼食をとる。昼食後は参加者が円陣になって、自己紹介を行い親睦を深めた。一方、別の班は見晴台に着いたところで、丁度お互いが確認できる位置であったので、携帯電話や大きく手を振ってお互いの確認・連絡をとりあった。

第2峰から約25分で栗野岳の山頂に着いたが「栗野岳山頂」の看板が狭い場所にあるのみで、早々にその場は通過することとなった。12時50分に山頂を後にして、温泉側登山口へと下山を開始した。こちらは木の根が張った急な下りで、足元に注意しながら慎重に下山した。登山道ははじめ自然林で登山口近くはヒノキの人工林となっていたため、紅葉している樹木は少なかった。13時53分温泉側登山口に到着。ここからはマイクロバスで枕木階段登山口まで送っていただいた。我々がバスで到着して程なくして、見晴台から下山してきたメンバーと合流、全員が無事下山できた。

今日はきれいな紅葉とリンドウ、ヤマラッキョウ、キッコウハグマの白い可愛い花に出会えカメラに収めることができてよかった。栗野岳にキッコウハグマがこんなに多く自生しているとは新しい発見だった。天候にも恵まれ、楽しい一日となった。



下山後、参加者全員



キッコウハグマ(亀甲白熊)

キク科モミジハグマ属の多年草で北海道から九州まで広く分布する。森林内のやや乾いた木陰に生育する。

会員外寄稿

蛭川 美恵子

どこかで加久藤カルデラ・霧島山系の生い立ちの記事は目にしていたが、登山前に頂いた資料で小林カルデラが約52万年前にできていたことを初めて知った。今回は、一番最初にできたといわれる栗野岳へ出発。

枕木階段を登り、展望所あたりから紅葉が見られ、キッコウハグマ・アキノキリンソウ・ヤマラッキョウなどの草花が咲いていて、疲れを癒してくれた。今回の下山道は初めてで、違うコースを歩くのも嬉しい。道路端の紅葉も陽があたりとても綺麗で楽しい山行となった。

<参加者27名> 拵恵子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・林田明美・蔵屋とよ・白賀智子・風間恭子・荒武八起・谷口菊美・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・川越政則・鶴田鎮文・迫田茂美・会員外9名

<コースタイム> 宮崎市7:00～枕木階段登山口8:50(9:07)～展望台9:20～もみじ群生地10:30～見晴台10:49(10:57)～第2峰11:24(12:25)～栗野岳山頂12:50～温泉側登山口13:53～枕木階段登山口14:20～宮崎市16:10

[グループ山行] キバナノホトギスを愛でに加江田溪谷 9月30日(木)

橋口 三枝子

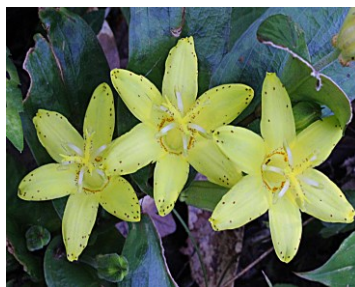
9月30日(木曜日)川越さんより加江田溪谷のキバナノホトギスが咲き始めたとの情報があり急遽見に行くことになった。これまで予定されていた山行も雨のため流れ、なかなか一緒に山行もできず、丁度そんな時の呼び掛けに会員11名、他4名の参加で丸野駐車場に9時集合。前日までの雨も上がり絶好の散策日和となった。ここ加江田溪谷は「日向ライン」と呼ぶ人が多く、水の浸食によってできた奇岩や自然美が欧州のライン溪谷に似ていることからそう呼んでいたようだ。

歩き始めてすぐホトギスが蕾をたくさん付けているのが見られた。こちらの見頃はもう少し先のようだ。ひょうたん淵付近からお目当てのレモン色の光沢のあるキバナノホトギスがポツポツ見られるようになる。キバナノホトギスは宮崎県内ではよく見かける花ではあるが、調べてみると他の県では知られてない宮崎の固有種で自慢できる花なのだ。気象や土壌が影響しているのではと思われる。そのような貴重な花を遊歩道沿いに見られるとはなんとも贅沢なことだ。

加江田溪谷は他にもたくさんの植物を楽しませてくれる。その中に今回は栗林さんから「ツユクサシユスランが咲いていた」と、大体の場所を聞いていたが探すにも見つからず、花が終わったかな〜と残念と思っていたら後を歩いていた多田さん、風間さんから「あったよ」と聞き帰りに期待することに。写真でしか見たことがなかったツルニンジンも多目的広場近くで見ることができた。この溪谷はシダ、コケも多くこの日は雨あがりのせいか多目的広場付近に沢山あるコンテリクヤマゴケが緑鮮やかに輝いていた。帰りはお目当てのツユクサシユスランも見ることができた。ランの仲間で、10センチほどの小さな薄桃色、ひとつ見つけると全く見つけられなかったのが次々と見つかるから不思議なものだ。今回は花の勉強会ともなり日向ラインをのんびり堪能することができ有意義な一日となった。



多目的広場



キバナノホトギス



ツユクサシユスラン

会員外寄稿 大住 はつ子

ホトギスが咲き始めたとの情報に総勢15名で加江田溪谷に出かけた。一輪でも咲いていることを期待して、そして自分でも見付けられるといいなと思いながら歩いているとひょうたん淵を少し過ぎたあたりに最初の一輪、加江田溪谷の女王キバナノホトギスに出会った。嬉しくて皆で写真を撮りまくり!!

溪谷では四季折々に花が咲き美しいシダ・コケ類も多いのだが、やはりキバナノホトギスは別格。「こんにちは、今年も会えましたネ」という気持ちにさせてくれる。残念なことに数年前から比べると数は減っている。原因はいろいろだろう。考えたくないことだが、もしかしたら盗掘も・・・?とふと脳裏をよぎった。思わぬところから顔をのぞかせたり、みんな元気に凛として咲いている。ほかの花達との出会いも楽しみながら多目的広場まで・・・。「また来年お互い元気で会いましょうネ!」と話しかけながら帰途についた。



何か珍しいものが?

<参加者15名> 清家順子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・橋口三枝子・風間恭子・荒武八起・谷口菊美・多田周廣・橋口光博・川越政則、会員外4名

<コースタイム> 丸野駐車場9:15～硫黄谷10:00～多目的広場11:00(昼食)12:00～丸野駐車場13:30

県山岳・スポーツクライミング連盟主催・高千穂の峰交流登山 11月14日(日)

服部 澄子

県山岳・スポーツクライミング連盟主催の交流登山に参加した。10人乗りマイクロバスで宮崎を6時半に発ち、集合場所の矢岳登山口駐車場に7時40分に着く。集合時間は8時となっていたが、すでに多くの車が停まっていた。

今回の登山は、県内の各山岳会、山の会などの相互交流・親睦を図るために計画された。参加者は、日南山の会・日向わらじ会・宮崎山岳会・都城山岳会・宮崎市役所山岳会・諸塚山岳会・日本山岳会宮崎支部・個人参加を含めて41名である。登山コースは①健脚コースとして高千穂の峰の北壁を直登するコース ②ノーマルコースとして、天孫降臨登山口から入山して山頂を目指すコースの二つに分けられ、下山はいずれもノーマルコースとされた。宮崎支部14名全員を含む32名がノーマルコースを選択した。

主催者代表挨拶、実行委員からの説明などを聞いた後、矢岳登山口駐車場を8時10分に出発し、40分かけて天孫降臨登山口に着く。少し歩くと砂防ダムに出る。以前とは変わって砂が溜まり自然の変化を感じる。砂防ダムを渡り小尾根に取り付く。タブ・カシなどの照葉樹に混じってツガ・モミなどの大木が多いのに驚く。モミの木は一人の手ではまわすことが出来ない大きさである。林床にはツチトリモチも4～5本顔を出している。

第一展望台(893m)まで来るとモミジなどの紅葉が空の青さに映えて見事であった。第二展望台(1080m)を過ぎると傾斜が強くなり、登山道はジグザグを繰り返す。周辺の樹林は背の低いミヤマキリシマの群落に変わり展望が開け稜線(1320m)に出る。秋も深まり肌寒い中にツルリンドウが咲いていた。この先山頂まで真っすぐに急な丸太の階段が続いている。足が少し痛くなったが、一步一步登り11時45分山頂に立つことができた。山頂には大勢の人がいたが、雲も出て来てとても寒かった。食事後、健脚コース組と合流し集合写真を撮る。

下りは今までこんなに早いスピードで下ったのは初めてでコースタイム以内であった。起点の矢岳登山口駐車場に着くと主催者側の方々からぜんざいのふるまいをしていただいた。とても楽しい登山であった。

<参加者・宮崎支部14名> 拵恵子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・竹田裕見子・風間恭子・荒武八起・武田芳雄・服部岩男・四宮林三・平田五男・会員外2名

<コースタイム> 矢岳登山口駐車場8:10～天孫降臨登山口8:50～第一展望台9:50～第二展望台10:10～稜線10:50～山頂11:45(昼食12:50発)～矢岳登山口駐車場15:10



開会式



第一展望台への登り



稜線を行く



山頂

[山の日イベント] 双石山登山・加江田溪谷散策 11月23日(火・勤労感謝の日)

武田 芳雄

宮崎市山岳協会主催の今年の山の日イベントは、8月12日に予定していたが、コロナの影響から11月23日に延期し実施した。当日は、市山岳協会及び一般参加を含めた83名が参加した。参加者は登山コースと加江田溪谷ハイキングコースとに分け、準備体操の後、8時25分に丸野駐車場を出発した。

登山コースは参加者が多かったので3班に分け、私はしんがりの3班であった。風もなく雲一つない晴天である。麻島から先は久しぶりで、こういう所もあったのかと新鮮な気持ちを抱く。河川沿いに出るとなめ岩を流れる水とモミジの紅葉を見ながら進む。程よく育ち手入れの良い杉木立の道は心地よい。二つの橋を渡ると作業場が奥にある。以前ここで豚汁をご馳走になったことを思い出す。

多目的広場に向かって行く途中でハイキングコースを選択した女性会員2～3名に追いつく。その中の一人が体調を悪くしているようで、同コースの他の参加者から随分遅れているようだった。多目的広場につくと先着組は昼食をとっており、その後、第一班から順番に出発をする。昼食後、体調不良の女性会員と共に歩き始めたが、歩いていても体が右に傾くようで同行者に支えてもらっていたが、やがて歩けなくなる。

救助を求めようとしたが、携帯電話の電波が届かないため数人を残し、電波の届く場所を探して消防に連絡する。会員の中に内科医がおられ、ヘリコプターによる搬送を薦められる。スタッフが網シート、カラビナ、ロープを持ってきて、私の持参してきたものも使い6名で搬送を始めた。ほどなく丸野駐車場から徒歩で到着した消防隊がヘリポート(レスキューポイントB10)に向かって搬送を始めた。

女性を消防隊に引き渡した後、我々は丸野駐車場を目指して歩いた。途中、ヘリコプターが飛んできて、やがて去っていく音が聞こえた。14時20分丸野駐車場につく。駐車場には消防車、救急車が来ており、臨時指揮所が置かれていた。ぜんざいが作られており美味しく、3杯頂く。14時45分解散式が行われた。

女性会員の体調不良の原因は、水分補給不足が一因と考えられる。体調の異常を意識した後で飲み物を口にしたが間に合わなかったようである。幸いなことに参加者に内科医及び何人かの看護師がおられ適切なアドバイスをいただいた事と、整備点検を終えた救助用ヘリコプターが直ちに調達できたことでいち早く搬送できた。大学附属病院に搬送された女性会員は、そのまま4日間入院し、あらゆる検査を受けたが、後遺症もなく異常所見も確認できなかったとの事であった。会員一同安堵すると同時に水分補給の大切さを痛感した。



開会式



登山コース 宮崎支部メンバー



杉木立の道

<宮崎支部参加者20名> 拵 恵子・清水弘子・清家順子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・林田明美・風間恭子・谷口菊美・武田芳雄・多田周廣・服部岩雄・平田五男・川越政則・他4名

<コースタイム> 丸野駐車場8:25～麻畑9:55～桧山分10:05～丸太橋11:30～多目的広場11:40～(昼食)12:20出発～(体調不良者救護)～硫黄谷13:50～丸野駐車場14:20～解散式14:45

大雨により荒廃した小谷登山道の整備作業 10月2日(土)

川越 政則

今年は例年と違って豪雨の多い年である。各分野に被害をもたらした全国では堤防の決壊、土砂崩れ、家屋の全壊、農家では作物の不作、物価の高値など大きな爪跡を残している。宮崎においても同じで、その中でも登山者に一番愛され親しまれ、年間にすると何千人という人達が訪れる山、双石山の登山口が台風14号に伴う大雨で甚大な傷跡を残しているという連絡を受け早速出かけた。

小谷登山口を少し登って見るなり大きな穴が何ヶ所も目に入った。大雨で溝が枯れ木や大石小石などで埋められ、流れる場を失った水が登山道に流れ込み土を削り取っていった傷あとである。以前に植樹した木々もかなり無くなっていた。それを見て水の力は本当にすごいものだと思改めて驚いた。どんな方法で元のようにしたらよいかと3日間現場に通い考えた。その合間を見て現場より上の登山道を整備しようと言うことになり、日向わらじ渡辺さん・木曜会川越さんと3人で1日かけて横木をそえ、足の踏み込みのよい高さにし、事故が起こらないように修復した。

さてこれからが本来の仕事にとりかかるのだが、ど

んな方法が良いかあれこれ考え、最終的に荒武支部長にも現場を見ていただいた。支部長も同じ考えであったので、作業していただく方を集めることにし、宮崎市山岳協会の方に呼び掛けをし一般登山者の方達にも色々な方法でお願いした。「バケツ、ヤマグラ、スコップ、一輪車などを持参で」と呼び掛けたところ55名もの大勢の方に集まっていた。特に女性が多かった。

作業の手順として、まず流れを妨げている溝の土砂を取り除き、その土砂を削り取られた登山道の穴に埋めることを説明した。土砂の搬送をバケツリレーで始めると「ヨイショヨイショ」の掛け声とともに作業はどんどん進んでいった。当日は天候も良く暑くて汗だくになり、1時間おきに休憩し水分補給をした。予定では2日間の日程であったが午前8時半から始めて午前11時には予定した作業を終了することが出来た。全員の力を結集することでこんなにも早く完了することができ皆様方に感謝である。事故が起こる前に元の登山道に成ったことが疲れを癒してくれた。補修に参加いただいた方々にお礼を申し上げたい。



1. 深く削られた登山道 仮の足場の丸太を取り除く



2. 大石小石で埋める



3. 土をかぶせて完成



4. 流木や土砂を取り除き流れを回復



作業中の参加者

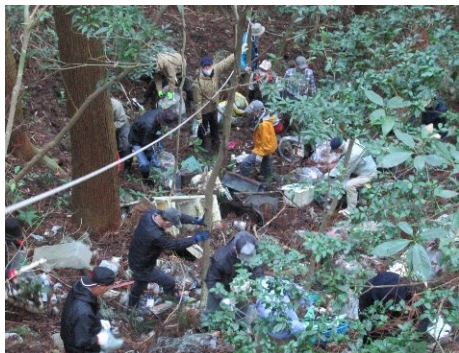


[自然保護委員会]

小谷登山口清掃作業・双石山登山 12月11日(土) 前原満之

今年も、宮崎市山岳協会及び一般の参加(公立大生含む)で実施。場所は小谷登山口の先、「鏡洲地区の皆さんへ」の看板のある駐車スペース下の山林内である。今回の場所は傾斜がきつい所であったが、川越さん達に準備していただいた滑車を使ったロープで大型ゴミ等大量のゴミを搬出できた。市から支給のボランティア袋100袋等計113袋(内燃えないゴミ28袋)。更にゴミ袋に入らない冷蔵庫、自転車、テレビ、

タイヤ、毛布等、多くの長年の不法投棄物等を回収し、目を覆うばかりのゴミが散乱していた林内は見違えるようにきれいになった(2時間20分作業)。現場に置いたゴミ袋は後日市環境業務課にて回収し大型ゴミは県土木事務所に回収してもらった(事前にクリーンロードみやざき推進事業に関する協定を締結)。清掃作業後の登山は、第2展望台までとして実施した。



長年放置されたゴミは土に埋まり、回収も一苦労。一般ゴミはもちろん、大型ゴミの多さに驚く。



ゴミの引き上げに支柱、滑車、ロープを使う方法が大活躍！



作業終了後の集合写真



引き上げたゴミは、一旦ひっくり返し、燃えるゴミと燃えないゴミ、大型ゴミとに分別し、収集に備える。



清掃作業後登山



チョッキストーン

< 参加者47名(宮崎支部19名) >

清家順子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・蔵屋とよ・前原満之・荒武八起・日高研二・谷口菊美・武田芳雄・多田周廣・櫻木勉・服部岩男・弓削達雄・四宮林三・川越政則・栗林忠信

※ アンダーラインは登山参加者、登山には橋口さんの知人、児玉林平さんも同行し計7名参加

宮崎支部の自然保護活動概要

前原満之

1) 森づくり活動

当支部の森づくりとしては、平成13年～14年、3カ所に植栽し、令和2年2月まで毎年下草刈等手入れを続けてきた。その後、令和2年3月から加盟している宮崎市山岳協会と一緒に双石山小谷登山道の森づくりに取り組んでいる。

2) 清掃登山

平成8年から毎年12月に実施してきたが、平成26年からは特に登山口周辺の不法投棄のゴミ回収を行っている。令和2年からは、宮崎市山岳協会及び一般市民の方にも協力いただき実施している。

3) 森林保全巡視員

平成14年2月から宮崎森林管理署の依頼を受け、宮崎自然休養林登山道の点検報告を実施してきた。その後、平成28年5月、同登山道の管理主管が変更になったため依頼を終了することとなり、同取り組みは終了となった。その後平成30年2月、同じく宮崎森林管理署に森林保全巡視員の申請を行い、県内全般の国有林について、登山時等報告事項があれば随時報告している。

◇本原稿は、昨年9月、本部自然保護委員会から、各支部の自然保護活動状況の報告依頼を受け、報告した原稿の一部を転載するものである(一部加筆修正)。

宮崎の自然 ハナカズラ(和名:鳥兜菊)

石井 久夫

ハナカズラは、トリカブトの仲間で非常に毒性が強く誤って食べると命を落とす毒草である。昔から医薬品として用いられ狩りの矢毒として使用されてきた。

狂言の「附子:ブシ」は、主人が砂糖を附子という猛毒と称して、しまっていたものを太郎冠者と次郎冠者に見破られて食べられるという話だが、附子はトリカブトの中国名で昔から毒物の代表とみなされ重要な薬草で漢方の処置法とされている。

秋に濃紫色の花を咲かせ頂萼片は、烏帽子状の形をして和名はトリカブトギク、中国名は烏頭(ウズ)で形が根のようなのでそう呼ばれている。日本には20種のトリカブトが野生しているが、変異が強く種の区別が難しい。西日本にはタンナトリカブトとハナカズラが生育している。

ハナカズラは、半つる性の多年草で上部は他の植物に巻き付いて長さが70~150cm、花序は散房状、花柄は長さが2~5cmで秋に3~4cmの兜状のきれいな紫色の花を多数咲かせる。

4倍体種群の中には花序の無限的なものと有限的なものがあるといわれ、世界的には無限体が多いが、日本では無限的なものは少ない。ハナカズラは朝鮮半島、中国東北部に生育しているが、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧種とされ宮崎県では特に重要度Aとなっている。

大分、熊本、鹿児島にも生育しているが、県内での分布は、主に県西で丘陵の二次林の林縁部に生育している。以前は関平温泉の近隣の家の庭に栽培しているのを見たことがあり、高千穂の峰の御池側の登山口に自生しているものもあった。しかし、現在ではスギ造林、採取によりほとんど消滅している。

洋の東西を問わず毒薬としてのトリカブトはアイヌの人達にとってクマやクジラを捕るのにその矢毒として使用していた。大体、北半球における矢毒はトリカブト製で根は猛毒で使い方を間違えると命を落とすので素人は絶対に使用しない。

〈メモ〉 ハナカズラ

学名:Aconitum japonovolubile

割合分布の少ない一風変わった貴重な植物で、山林の林縁に生育するつる性の植物である。秋に茎の上部の葉の付け根から3cmくらいのきれいな紫色の花を開く。花の形は兜形で花弁の内側にまがった毛と真っすぐな白い毛が生える。薬用となるが猛毒で塊根を加工して鎮痛・強心等の方剤に加える。宮崎は日本における南限の分布域である。



〈リレー通信 1〉 大失敗談

服部 敬二

21歳のゴールデンウィーク。上高地から槍ヶ岳を目指した。天気は上々。槍沢ロッジから残雪多し。槍沢は白銀の世界で夏道と違い沢のど真ん中をルートワークできて楽である。春山といっても1日に30~40cmの積雪ありで何ら冬山と変わらない。表層雪崩に注意。2日間、晴天続きで楽しい登山で白銀の世界を満喫した。

無事帰宅後、目がヒリヒリ、瞼が開かず、これは何だと翌日病院眼科へ。診断は「雪目」と言われた。顔は雪焼け2、3日で治った。恥ずかしながら魂が入った。雪山・高山には紫外線対策としてサングラス・ゴーグルは忘れないでザックの中に!!

ヒリヒリ、バリバリの目の充血はもう御免!!



写真 & イラスト: 服部

令和3年度晩餐会

日高 研二

毎年恒例の晩餐会。支部の行事もこれが今年最後の行事となる。昨年はコロナのために中止となったが、今年も開催するかどうか定例会で協議した結果、コロナも全国的に落ち着いた感もあり、本県も独自の緊急事態宣言も解除されたことから、コロナ防止対策に十分配慮して、計画通り12月11日(土)、晩さん会を開催することとなった。

午後6時、「ニューウェルシティ宮崎」において25名の参加のもと開宴。荒武支部長の開会挨拶後、若手新規加入の森本会員、北海道支部から移籍の川協会員、友人オブザーバー参加の青木さんの3名を紹介。弓削会員の乾杯の音頭と進み、歓談に入る。会食は、「みやざきモデル」を实践。各テーブル4人掛けとしアクリル板で仕切ってマスク掛けの会食で少々窮屈な感じもするがやむを得ない。普通に会食できるのはいつになるのだろうか。会員から銘酒・ワインなどの寄贈もあり美味しかった。いつもいつも感謝である。



参加者全員



弓削会員・栗林夫妻・橋口会員による合唱



橋口会員、民謡を披露



聖火ランナー姿で盛り上げた竹田会友

日向山旅賛歌は、宮崎支部の愛唱歌として「古関 裕而作曲、穂高よさらば」のメロディにのせて折にふれ歌っている。

アトラクションとして、日向市から参加の竹田会友がオリンピック聖火ランナーユニフォーム姿で登場、体験スピーチと金色トーチのお披露目があり、各テーブルで各会員トーチと一緒に写真撮影などで盛り上がる。

また前原自然保護委員長から今日昼間実施された双石山清掃登山の報告があり、収集した106ゴミ袋その他粗大ごみ多数あったとのこと。参加された会員の皆さま大変お疲れ様。

その後、空くじなしのビンゴゲームを行い参加者全員が商品を受け、最後に谷口敏子会員作詞による宮崎支部の代表曲「日向山旅賛歌」の静かな静かな合唱で終宴となった。

約2時間の晩餐会であったが、コロナ禍の中での久々2年ぶりの晩餐会であり、皆と楽しい時間を共有できたことはとても良かった。

一日も早いコロナの収束を祈念する!!

日向山旅賛歌

日本山岳会宮崎支部編

谷口 敏子 作詞

- | | |
|---|--|
| 1. 崩野を越えて三秀台へ
はるかに望む阿蘇・久住
しのぶウエストン我が父よ
明日は登ろう祖母山へ | 7. 六峰越えて諸塚山へ
七つの峰に日は昇る
神々宿ると崇めし山よ
君と登ろう新雪踏んで |
| 2. 日之影越えて傾山へ
春風吹けば芽ざめたる
アボノツジ紅に
木間を染めて我を呼ぶ | 8. スズタケ分けて笹の峠へ
さ霧は深く身を濡らす
笹の露やら涙やら
せり歌恋しや塩の道 |
| 3. 祝子を遡り大崩山へ
岩間に咲きしササユリよ
君を思いて見上ぐれば
水の調べが胸に染む | 9. 名貫を遡り尾鈴の山へ
矢研の滝にホトギス
牧水めでしふるさとの
秋も霞のたなびく山よ |
| 4. 北川抜けて可愛岳行けば
せつなく赤きヤブツバキ
逢いはせなんだか
あの和田越えて
薩摩なまりの落人に | 10. 加江田に沿いて双石山へ
むらさき淡くイワタバコ
苔むす岩を登り来て
憩う彼方に日向灘 |
| 5. 椎葉湖を後に扇の山へ
ひえつき語るヤマブキよ
都へ続く霧の道
鶴富恋しや八村杉 | 11. 生駒を後に霧島山へ
何を語るかノカイドウ
韓国 新燃 中岳 越えて
仰ぐ高千穂夕日に映える |
| 6. 椎葉を越えて白鳥山へ
キレンゲショウマの花明かり
清経しのびたたずれば
霧立越えて雲は行く | 12. 山々さらばまた来る日まで
明日はいずこの峰を行く
われら山行く旅人よ
ザックに結ぶ夢いくつ |

支部行事予定(1月～3月)

[事務局だより]

月 日	行 事 名	標 高	備 考
1月6日(木)	第267回定例登山研究会		宮崎市中央公民館
1月9日(日)	定例山行 日南大島 屋敷山	206m	清武ナフコ8:00集合
1月15日(土)	定例山行 釈迦ヶ岳	830m	法華岳駐車場8:30集合
2月3日(木)	第268回定例登山研究会		宮崎市中央公民館
2月6日(日)	定例山行 好隣梅周辺		清武ナフコ8:00集合
2月18日(土)	定例山行 仰鳥帽子岳	1301m	熊本県
3月3日(木)	第269回定例登山研究会		宮崎市中央公民館
3月5日(土)～6日(日)	熊本支部交流登山		天草
3月13日(日)～27日(日)	諸塚山 山開きイベント	1341m	諸塚村
3月20日(日)	双石山 山開き		宮崎市

支部会務報告(9月～12月)

月 日	事業・行事	開催場所	人員	備 考
9月2日(木)	第264回定例登山研究会	宮崎市中央公民館		コロナのため中止
9月23-26日	定例山行	北アルプス		コロナのため中止
9月30日(木)	グループ山行	加江田溪谷	15	
10月7日(木)	第264回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	16	
10月10日(日)	定例山行	尾鈴山・白滝	10	
10月23日(土)	定例山行	岩壺山	9	
10月26日(火)	グループ山行	甕岳	11	
11月3日(水)	定例山行	栗野岳	27	
11月4日(木)	第265回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	18	
11月14日(日)	交流登山*	高千穂の峰	14	参加総数41名
11月23日(火)	山の日イベント(代替)	双石山・加江田溪谷	20	参加総数83名
12月2日(木)	第266回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	16	
12月11日(土)	清掃登山	双石山	19	参加総数47名

*県山岳スポーツライミング協会主催

山岳古道調査

調査期間	調査区域	延べ調査回数	延べ参加人員
2021.1～12	薩摩街道	9回	47
〃	飫肥街道	4回	43
〃	霧立越え	0回	0

編集委員会から

投稿のお願い 山行に関するものはもとより、随筆・詩・短歌・俳句など何でも結構ですので皆様の積極的な投稿を何卒よろしくお願いいたします。また支部報に関するご意見などありましたら編集委員会へ忌憚なくお寄せください。

カラーページのご案内 配布します本支部報は、経費節減のため表紙のみカラーで、他は白黒印刷ですが、日本山岳会ホームページの宮崎支部を開きますと全ページがカラーで閲覧できますので是非ご覧下さい。

編集後記

令和3年中は新型コロナウイルスの感染防止のため山行等が中止や延期となったが、ようやく9月下旬ころから感染防止対策を取りつつ山行を楽しめるようになった。今回は臨場感あふれる山行の報告もあり楽しい支部報となったのではないかなと思う。また宮崎市山岳協会等と協力し大雨により荒廃した小谷登山口の整備や小谷登山口清掃作業を行った。清掃作業を続けてきて小谷登山口付近では蛍も見られるようになったことは大いに喜ばしいことである(拵)。

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 第77号

発行責任者：荒武 八起

編集委員：谷口 敏子(編集委員長)、多田 登美子
拵 恵子

事務局：日高研二

〒880-0933 宮崎市花山手東2丁目17-11

Tel, Fax 0985-52-6685, 080-1766-1207

E-mail: k-hidaka@har.bbq.jp

口座：ゆうちょ銀行 記号17310 番号16269811

名義人：(社)日本山岳会宮崎支部